

(公開用)

## 令和6年度 飯山市未来の保育検討会 会議録（要旨）

開催日時 令和6年7月30日（火） 午後2時00分～

場 所 飯山市役所 4階 全員協議会室

出席人数 委 員：21名（1名欠席）  
事務局： 7名

魅力ある保育園のイメージ像 ～保育ニーズについて～

事務局：(説明)

会 長：今説明のあった「保育ニーズ」について、質問・意見等あればお願いします。

委 員：資料を拝見し、以下の4点について教えてください。

1. 土曜保育(2ページ中ほど)「預けやすい環境」とは具体的に何を指しますか。
2. 園での様子と情報共有(3ページ、5番目)市の発達支援への情報共有は、飯山市である程度できているのではないのでしょうか。この点について共通認識を持つ必要があると思いますが、いかがですか。
3. コロナ関連の制限(3ページ、下から4つ目)「人数制限をやめてほしい」とありますが、現状ほとんど制限はないのでは。最新状況を教えてください。
4. 園の対応(3ページ、下から2つ目)「すぐに休ませようとする」とありますが、実際は理由があってお願いしているのでは、この点の説明をお願いします。

会 長：それでは、事務局と現場の園長先生たちにも聞いてみたいと思います。質問された順に回答をお願いします。

事務局：この調査結果は、市民のニーズ調査で寄せられた回答であり、個別の意見について詳細な追及は難しい状況です。ただ、土曜保育については、現在、拠点園では1日保育を行い、それ以外の園では午前中のみ希望登園となっています。そのため、土曜も仕事のある家庭から「1日保育してほしい」という希望が含まれている可能性があると考えられます。また、保育園でも似た意見が保護者の方から寄せられている場合があれば、教えていただきたいです。

会 長：それでは、園長先生たちで保護者の方から聞いたことがありますか。お願いします。

委 員：当園では土曜保育は1日保育を行っているため、特に困っているという声は聞かれていません。確かに前月の10日までに申し込みをいただくという制約はありますが、必要な方は利用されています。他の先生方から何か追加のご意見や状況があればお聞かせいただきたいです。

委 員：皆さん必要に応じて登録と申請を行い、希望登園を利用されています。「預けやすい環境にしてほしい」という意見については明確には分かりませんが、現状では4月初めに登録し、その後、利用する際には前月10日までに申請していただくという2段階の手続きが必要です。ただし、この手続きについては保護者の方も承知の上で利用されていると思います。

(公開用)

会 長：今年4月から、きららの子育て支援センターが日曜日も開放され、退職した保育士5人で休日保育を行っています。私も月1回当番できららに行くのですが、利用者の方から「土曜保育の利用者が1~2人だと少なくて預けにくい」と話されることがありました。その際、「本当に必要なら1人でも2人でも先生たちの体制は整っているのです、気にせず利用してください」とお伝えしましたが、こうした理由も関係しているのかもしれませんが。保護者の皆さんの意見として、他に何か感じていることがあれば教えてください。

委 員：土日保育を利用する中で感じたことですが、祖父母など預け先がある保護者の場合、現在の手続きを踏むなら「預けなくてもいいや」となることが多いように思います。その結果、本当に預け先がなく、どうにもならない方だけが利用している状況に感じます。  
また、保護者の方や他のママたちと話して感じるのは、お弁当の準備や布団の持参が大きな負担になっているということです。特に、普段通っている保育園で土曜1日の保育が対応されていない場合、手続きや負担を考えて祖父母に預ける選択をしている方も多いように思います。特にお弁当の準備については、かなりの負担だと感じている方が多いのではないのでしょうか。

会 長：現状については以上でよろしいでしょうか。それでは、次に移らせていただきます。  
2番目について「園での様子などを市の発達支援などへ反映していただき、情報を共有してもらえるといいなと思う」という点については、事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局：市では、小学校を中心に「就学相談委員会」という組織があり、支援が必要な方へ個別対応を行っています。この組織では、小学校入学前の保育園児（主に年長さん）についても、専門の方々による支援や対応が行われているのではないかと思います。  
具体的な対応については、園長先生からご報告をいただければと思います。

委 員：保育園では、子どもたちが安心・安全に小学校に入学できるよう、小さい頃から市の相談員の先生と一緒に、児童の心配な点について相談しながらスムーズな入学をサポートしています。この取り組みは、利用している保護者の方々には理解されていると思いますが、全保護者に対して、こうしたサービスがあることをもう少し丁寧に伝える必要があったのではないかと感じています。何かその点が足りなかったのかもしれませんが。

会 長：飯山市は、保小連携がとても充実していると思います。私自身も、相談員の先生たちの対応が他の地域と比べて非常に良いと感じています。ですが、園長先生がおっしゃったように、この体制について何らかの形で発信する方法があれば、さらに理解を深めてもらえるのではないかと思います。これについて、どのようにお考えでしょうか。

委 員：支援の仕方については、配布している「みんなで子育て」などに相談員の情報が記載されており、個人的な詳細情報をさらに発信することは難しいと思います。また、具体的な支援について

(公開用)

は、3歳児健診や2歳児健診の際に、発達が気になるお子さんには個別でお伝えしていることが多いです。幼稚園や保育園では3歳児の段階から巡回の先生が来られ、必要な場合は個別相談を行い、情報共有も進めています。

会長：それでは3番の方へ移りたいと思います。コロナも5類になったので保育園や小学校の行事の人数制限をやめてほしいというのは、園長先生どうですか。

委員：コロナが5類となり、現在はほとんど行事の人数制限はしていません。ただし、入園式ではホールの狭さや施設の特性上、新入園児は保護者2名、継続園児は1名に限定する場合があります。これは5類移行ではなく、会場の都合によるものです。

委員：幼稚園ではコロナが5類となったものの、感染リスクを完全にゼロにすることはできません。そのため、施設として感染を抑える工夫が必要で、今年度の入園式は新入園児のみで実施しました。一方、その他の行事については、参観日などはコロナ前の形に戻し、入場制限は行っていません。

委員：私も主任児童委員として活動する中で、入園式や卒園式に参加する機会がほとんどない状況です。青少年育成の会でその点をお話しした際、教育長から「民生委員にも参加する機会を」という発言をいただきました。私たちにとって、入園式や卒園式、運動会などで子どもたちの成長する姿を見ることは、地域での子育て支援活動の大きな励みになります。ボランティア活動や日々の役割の中で、子どもたちから元気をもらい、それが活力となっています。民生委員はお年寄りの支援だけでなく、児童に関する支援も行っています。小学校での見守りなどを含め、地域での支援に尽力している立場として、これからも園長先生方にご配慮いただき、引き続きご理解とご協力をお願いしたいと思います。

委員：結論としてコロナが5類になったとはいえ、完全にコロナ前には戻せないという点と、会場の都合という2つの理由から、行事で人数制限を行う場合があると理解しました。特に福祉施設として感染を防ぐ責任があり、園長先生方の苦しい判断であることも感じています。

会長：4番「すぐに休ませようとする」というところなんですが、これも園長先生たちにお聞きしてよろしいですかね。

委員：「休ませようとする」との受け止めについて、福祉施設としては、働く保護者のためにお子さんを安心・安全に預かるのが役割ですが、明らかに体調不良の子どもを預かるのは子ども自身に負担が大きいです。そのため、症状を見て判断する場合があります。ただし、「休ませようとする」と捉えさせてしまった背景には、施設側の対応や説明不足があったのかもしれない。

会長：保護者の立場からどうでしょう。

(公開用)

委員：保護者の方が感じる「すぐ休ませる」という印象は、自分たちの子ども時代と比べた違いが影響しているのかもしれませんが。コロナの影響で微熱や軽い咳でも帰宅対応となる現状が、誤解を招いているようです。福祉施設としての方針を丁寧に説明し、保護者へ事前に対応基準を伝えることで、誤解やすれ違いを減らせると考えます。先生方の日々の連絡帳の活用も、その一助になるはずです。例えば連絡帳や日常のやり取りの中で、具体的に「このような症状の場合はお迎えをお願いしています」と先に伝えるだけでも、保護者の受け取り方が変わるのではないかと感じました。このようなコミュニケーションを通じて、誤解を防ぎ、信頼関係を深めることが大切だと思います。

委員：「すぐに休ませようとする」という意見を受けての補足と考えですが、コロナは完全に収束したわけではなく、集団生活の中で感染症対策を続ける必要があるため、保護者の皆様に丁寧に情報を発信する重要性を改めて感じました。

会長：ご意見を伺い、立場が違えば捉え方も異なるということを実感しました。その中で、保護者と保育園が日頃から言いやすい関係を築くことが大切だと改めて考えました。お互いがしっかりコミュニケーションを取ることで、より預けやすい保育園を目指すことが、この会の目的にもつながると感じています。立場の違いから生じるすれ違いはどこにでもあるかもしれませんが、話し合うことでお互いの理解が深まるはずです。

以上を踏まえて、保育ニーズについてはここまでとし、次に進めさせていただきます。では、保育環境について事務局より説明をお願いいたします。

魅力ある保育園のイメージ像 ～保育環境について～

事務局：(説明)

委員：これまでも保護者会を通じて施設改善の意見が上がったことがあるかと思いますが、そういった要望を園長先生から飯山市に伝え、改善に向けた取り組みを進めることは可能でしょうか。また、改善の余地や具体的な対応の流れがあれば教えていただきたいです。可能であれば、保護者会で意見を集約し、市に伝えることで、より魅力的な保育園に近づけるのではないかと考えています。その点についてお伺いしたいです。

事務局：現在、補正予算の時期ということもあり、保育園から要望をいただいた暖房や冷房など、子どもたちに最適な環境を整えるための更新は行っています。ただ、遊具や設備については、元々3歳以上児を想定して設計された園舎に、平成26年～27年ごろから未満児も受け入れるようになった経緯があります。そのため、当時改築は行ったものの、未満児に完全に対応しているとは言えず、一部我慢してもらっている点があると感じています。

(公開用)

委員：ということは、要望を上げていっても別に問題ないという認識でいいですか。ありがとうございます。

会長：日頃のご意見をお伺いしたいと思います。今の説明の中で「待機児童ゼロの維持」という話がありましたが、それに沿えない方がいるとの報告があったとのこと。具体的にはどういった状況なのか教えていただけますか。もしそういった方がいる場合、厳密には待機児童ゼロとは言えないと思います。待機児童が発生すれば大きく報道されることもありますので、もう少し詳しくご説明いただけるとありがたいです。

事務局：「待機児童ゼロの維持」との説明がありましたが、一部で希望の保育園に入園できないケースがあるとのこと。具体的には、例えばAさんのように特定の保育園を希望した場合、その保育園には入園できず、市内の別の保育園であれば入園可能という状況です。

当市では、国の配置基準に基づき保育士を配置していますが、特に未満児に関しては少人数に対して保育士を配置する必要があるため、希望する園に入れない場合があります。ただし、市内のどこかの保育園には必ず入れるため、厳密には「待機児童」には該当しません。しかし、兄弟姉妹が通う保育園と同じところを希望される場合など、希望通りにならないケースがあることをご理解いただきたいと思います。

委員：妊娠中に保育園の申し込みは、今もできない状態なんですか。例えば、申し込み時期が10月から11月の場合、生まれ月が12月から3月のお子さん、1歳になったタイミングでの入園が難しいケースがあるようです。実際に申し込んでも「未満児クラスがすでにいっぱい」と言われてしまう状況を、知人から聞いたことがあります。

事務局：以前からですが、妊娠中でも仮の申し込みが受けられるようになっています。母子手帳を配布する際に保育園の申し込み、妊娠中であってもできますというご案内をさせていただいています。もちろんお名前等まだ決まってないと思うんですが、仮として申し込みをいただいて、申し込みいただいた人数については、入園できるような保育士の配置を心がけています。

委員：アプリ「すぐーる」について、私はその活用を進めてほしいと思っています。小学校では、子どもたちの様子が写真付きで送られてくるので、直接先生と話す機会が少なくても安心できます。最初は大変だと思いましたが、今ではありがたいです。保育園でも、連絡事項だけでなく、もっと活用してくれると保護者として嬉しいですね。他の保護者の方々はどう感じているのでしょうか。

委員：今のご意見を聞いて、私自身も共感するところが多いです。私には小学生の子どもがいますが、「すぐーる」からの通知は手紙よりも気軽に確認でき、仕事の合間にも目を通しやすいと感じています。そのため、保育園でももっと活用されると便利だと思います。ただ、通知が文字ばかり

(公開用)

だと固い印象になり、忙しいと「後で見よう」となりがちです。一方で、写真が添えられていると通知を見るのが少し楽しみになり、自然と意識が向きやすいと思います。すべての保護者が同じとは限りませんが、こうした工夫が保育園からの情報発信をスムーズにする一助になるのではないのでしょうか。もちろん、先生方にとっては業務の負担が増えることが懸念されますが、例えば「散歩に行きました」といった短いコメントと写真だけを載せるなど、手間を抑えた方法もあるかと思います。可能な範囲で情報の簡素化を図りながら、「すぐーる」をより効果的に活用していただければと思います。また、保護者としても通知を見逃したり忘れていたりして、先生方との間ですれ違いが生じることがあります。そのため、手軽に確認できる工夫が進むと、保護者と保育園との連携がさらに良くなるのではないかと感じました。短くてわかりやすい情報発信が、お互いの負担を減らすポイントになりそうです。

会 長：それでは、他にいかがですか。

委 員：今月、保育園で行った「飯山市未来の保育検討会」の保護者アンケートについて、いくつかの意見が出ました。

すぐーるの活用について：土曜保育の提出が毎回紙で行われていることに対し、アプリでできるようにしてほしいという意見がありました。これに関しては、すぐーるをもっと活用してほしいという希望が強いです。

保育園の統合について：統合に関しては、遠くなるのは不便だという意見が多かったものの、少子化を受けて統合は仕方ないという意見もありました。また、統合が進む中で、地域ごとの保育園を維持してほしいという意見も出ました。

給食について：(完全給食) 現在 34 世帯中 21 世帯がアンケートに回答し、11 世帯が白米希望、10 世帯が自己負担なしなら白米希望、希望しないが 0 世帯という回答になりました。

(オーガニック給食) 4 世帯が希望し、1 世帯が希望しないと回答。12 世帯はどちらとも言えないという回答でした。オーガニックに対する関心は高いものの、現在の給食が安全で良いものだと感じる保護者も多いようです。アンケート結果を踏まえて、今後の保育園運営に活かせる意見が多くありました。

委 員：今日の話聞いて、市が行っていることについて、実際にはいろいろな取り組みがあることに気づかされましたが、自分のアンテナが低いだけか、実感として感じることは少なかったというのが正直なところ。例えば、発達支援のような取り組みも、市がやってくれていることに気づかないことが多いです。こうした食い違いが意見として出ているのではないかと感じました。また、保育園の利用について、保育士さんと保護者の視点では、感じ方が大きく違うこともあると思います。例えば、書類を二段階で提出することが面倒に感じて、保育士からするとそれが普通だと言われると、温度差を感じます。保護者としては、パンフレットに情報が載っていても、忙しくて実際にじっくり見ることが少ないし、渡されたものをパラパラと見て終わることが多いです。こうした情報の取り扱い方や温度差が、実際の利用者と提供者の間に違いを生んでいるのかなと感じました。

(公開用)

委員：資料をいただいて読んでみたところ、こんなに多くの意見があることに驚きました。今日の話聞いていただけのような感覚になってしまったのですが、いろんな意見があるということは、みんなそれぞれに違った思いや考えを持っているということだと感じました。

私は普段、先生方に子どもを預けているので、命を預けているという感覚で本当に感謝しています。だからこそ、先生方と保護者の間にもっと理解し合える部分があればいいなと感じました。具体的にどうしていけばいいかはまだわかりませんが、話し合いを通じてお互いの気持ちを少しでも理解できる場があると良いと思います。

委員：いただいた資料を読んでみて、親目線の意見が多く、共感できる部分もたくさんありました。しかし、私はもっと子ども目線での魅力的な保育園を考えたいとも思っています。子どもが楽しんで通いたいと思える場所、個性を引き出すような保育が大切だと感じました。例えば、遊具が難しい場合でも、ボールプールや絵本に囲まれた場所があれば、子どもたちが本を読む習慣を身に付けたり、感性が豊かになると思います。親目線だけでなく、子どもが喜ぶ保育園も大切にしていきたいと感じました。

会長：他にご意見がある方はいらっしゃいますか。今、いくつか課題が挙げられたと思いますが、すぐに答えを出すのは難しいかもしれません。それでも、保育園としての立場や視点で、どのように考えているのかお聞かせいただければと思います。

委員：「すぐーる」のようにすぐに情報を送れるわけではありませんが、全園で「信州やま保育」に加盟していて、その中で例えば雪組さんがカエルやおたまじゃくしを探しに行った際の写真がアップされることがあります。文字だけでなく、子どもたちの生き生きとした姿や様子も見るので、ぜひそれらの情報も見えていただけるといいと思います。「すぐーる」ではまだそこまでできていませんが、もしよければ「信州やま保育」のサイトを検索して、各園でアップされている写真をご覧いただけると良いかと思います。

会長：幼稚園はいかがですか。

委員：昨年末に幼稚園で ICT を導入し、今年度から本格的にスタートしました。ICT を使った事務の簡素化は進めているものの、先生方が慣れるまでにはかなりの時間と労力がかかりました。現在、園では子どもの登降園の管理をタッチパネルで行っており、お家の方がその日の体温や排便状況を入力する連絡帳機能もアプリに変更されています。プールの有無や活動内容も配信されるようになり、以前の手書きの連絡帳がすべて ICT に移行しています。アプリ「コドモン」を使って、お便りや活動報告を写真付きで配信していますが、先生方がそのための時間を確保するのは簡単ではなく、上手にやらないと負担になります。例えば、保護者がどれくらい見ているかわかるのですが、すぐに見る保護者もいれば、アンケートへの返答が遅れることもあります。ICT を導入したからといってすべてが解決するわけではないと感じています。ただ、先生方が慣れて

(公開用)

くると、パソコンで作業する方が早くなるため、情報管理や連絡帳の返信もアプリ一つで効率的にできるようになります。しかし、初期投資が非常に高額で、もし飯山市全体で導入となると大変だろうと思います。私たちの園は私立幼稚園なので、県の補助金を使うことができましたが、他の保育園にとってはその点が難しいかもしれません。

委員：遊具やおもちゃの整備についてですが、毎年1回、業者の方が遊具の点検を行っています。ただ、遊具が徐々に老朽化しています。春の遠足でけやきの森公園に行った際、遊具が点検中で使えなかったため、おひさま保育園にお邪魔しました。そこで初めて見たのですが、未満児専用の砂場があり、しっかりと区切られた安全で安心できる空間で遊ぶことができるのが素晴らしいと思いました。また、以上児は未満児がいないので広いスペースで自由に走り回ったり、いろいろな体験をしている様子が見られ、そうした環境で区切られた空間でお互い安心して遊べるというのは、とても良いことだと感じ、うらやましく思いました。

会長：私もこれまで何度か見学しましたが、統合したからこそ実現できた良い環境だと感じました。現在の飯山市内の保育施設を見ると、同じような水準を目指すのは厳しいのではないかと思います。例えば、おひさま保育園は素晴らしい施設です。保健室があり、ナースが常駐して薬の管理も行い、保育士の負担を軽減しています。未満児向けのおやつは手作りで提供され、支援センターも建物内にあります。保育内容も、未満児と以上児の空間が分けられ、環境が非常に整っています。また、園長がいて主任はフリー、ナースもいる体制で運営されているため、ICTの導入もスムーズに進むのではないかと感じました。私自身、以前はとがり保育園に勤務しておりました。この保育園は統合保育園で、子どもが減少したことを受け、統合に賛成して運営が進められてきました。このような事例も、ぜひ検討の参考にさせていただきたいと思います。

委員：今年度から園長を務めています。保護者の皆さんに助けられながら、何とか日々頑張っています。未満児クラスについては、遊具だけでなく施設環境も気になります。多くの市町村では床暖房が当たり前になっていますが、当園ではそうではなく、子どもたちが靴下を脱いで寒そうにしている姿が気になります。未満児クラスの環境をもっと充実させたいと感じています。

委員：正直、場違いな会議に出てしまったように感じましたが、皆さんの意見を聞く中で気づいたことがあります。それは、保育園に通う子どもたちが「楽しい」と思えるかどうかが一番大切だということです。私の長男は、保育園に行くのを嫌がっていました。その理由は給食で、好き嫌いがあった彼にとって、毎日の献立が不安の種でした。調理員さんが作っている献立を見ながら、今日食べられるものがあるかを心配していたと先生から聞いています。次男や三男もあまり積極的に保育園に行こうとはせず、親や祖父母に連れられて通っていました。子どもたち自身の意思よりも、大人の判断で通わせていたのが現実です。しかし、今の子どもたちは、自分の気持ちや意見を表現する力が以前よりもあるように思います。だからこそ、親の意思やエゴではなく、子どもの気持ちを尊重し、子どもが本当に「行きたい」と思える保育園を作ることが重要だと改めて感じました。

(公開用)

委員：昔、娘が保育園でお世話になった頃と比べると、保護者やその周りの環境が今では大きく変わっています。今日の議論を聞いて、例えば木島平村の保育園の取り組みなどを参考に、飯山市でも視察や研究をしているのか気になりました。そのあたりをもっとしっかり勉強してほしいと思います。もちろん予算の問題もあると思いますが、飯山市の保育園は老朽化が進んでいます。大事な子どもたちが育つ場所ですから、改修や新築などを進め、環境整備に力を入れてほしいです。1か所ずつでも良いので、具体的な行動をお願いしたいと思います。

会長：私の時代、休日保育についても取り組んでおり、上田市を視察して現状を学びましたが、園長先生たちは今もそのような視察を続けていますか。

委員：はい。コロナの時期には行けない時もありましたが、長野市や信濃町などに保育の視察に行った経験があります。

委員：では、飯山市の行政の方や事務局としてはいかがでしょうか。

事務局：行きたいと考えています。

会長：時間も迫っていますので、事務局からお話をお願いします。

事務局：本日の会議の最後に、3回目に向けた流れについて説明させていただきます。

本会議の最終目標は、報告書としてまとめることです。次回までに、今日いただいたご意見をもとに、わかりやすい形で報告書のたたき台を準備します。例えば、「休日保育の充実」といった表現についても、保護者や先生方が誤解なく受け取れるよう整理したいと考えています。

報告書のたたき台は、会議直前ではなく、ある程度余裕を持って事前にお送りする予定です。それを基に、保護者の方々や周囲のご意見も伺いながら、3回目の会議を迎えられればと思います。次回は11月頃を予定しています。また、この検討会とは別に「子ども子育て会議」があり、そちらとも連携しながら進めてまいります。限られた時間の中で多くのご意見をいただき、ありがとうございました。事務局でまとめ、引き続き準備を進めてまいります。以上で、第2回飯山市未来の保育検討会を終了させていただきます。ありがとうございました。